

草の根技術協力（草の根パートナー型）事業提案書要約

I. 提案事業の概要	
1. 対象国名	マラウイ共和国
2. 事業名	未利用資源の活用によるムジンバ県の小農の農業収入向上支援
3. 事業の背景と必要性	マラウイでは元来の作物の生産性の低さと、トウモロコシ栽培に強く依存した農業の不安定さが課題になっている。未利用資源（特に人間の尿尿）を活用して小農自身が肥料を製造することで、化学肥料の不足、堆肥作成に必要な資材・労働力の不足といった問題を解決し、換金作物を小規模に栽培・販売する機会を創出して小農の暮らし向上に寄与する。
4. プロジェクト目標	未利用資源の活用により、農業収入が改善され、ムジンバ県の小農の暮らしが向上する
5. 対象地域	ムジンバ県
6. 対象地域を管轄する在外公館（大使館、領事館、領事事務所）	在マラウイ日本国大使館
7. 受益者層（ターゲットグループ）	ムジンバ県の 5 農村の小農 150 世帯、マーケットで産品を購入する消費者 100 名、学校（CDSS）に所属する教師・生徒 500 名
8. 生み出すべきアウトプット及び活動	<p><アウトプット></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 未利用資源を活用して小農により農産物が生産される 2. 小農が生産した産品の販売活動が確立される 3. 学校と農村が連携して未利用資源が利用される <p><活動></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. エコサントイレを整備し、人間の尿尿由来のエコサン堆肥・尿肥料を施用した作物の栽培手法を確立する 2. エコサン農家による換金作物の販路を確立するとともにエコサン堆肥・尿肥料の品質を保証する 3. 寄宿舍付き学校(CDSS)がエコサントイレを整備し、製造したエコサン堆肥・尿肥料を校内あるいは小農の畑に施用して、作物を栽培する。
9. 実施期間	(西暦) 2021 年 10 月～2024 年 10 月 (3 年 1 カ月)
10. 事業費概算額	72,789 千円
11. 実施体制	京都大学大学院地球環境学堂が現地 NPO 法人 Tiyeni Organization、マラウイ農業省ルニヤングワ試験場を C/P とし、マラウイ文部科学省の協力も得て実施する。
II. 応募団体の概要	
1. 団体名	国立大学法人 京都大学（大学院地球環境学堂）
2. 活動内容	京都大学大学院地球環境学堂は地域課題解決に向けた実践的な研究と人材育成に取り組む部局である。過去には 2 件の JICA 草の根パートナー型技術協力事業「ベトナム中部・自然災害常襲地域での暮らしと安全の向上支援」（2006～2009 年）、「ベトナム中部・自然災害常襲地のコミュニティと災害弱者層への総合的支援」（2010～2013 年）を実施している。

(注：A4 用紙 **1 枚以内**にまとめてください)